

# ＜平成25年度木材利用推進「全国会議」 — 木材利用の街づくり推進 — の概要＞



日時：平成25年7月29日（月）13時から17時30分  
場所：木材会館 7階ホール 東京都江東区新木場 1-18-8

(木材利用推進中央シンポジウム)

## 1 公共建築物への木材利用推進の取組み等

### (1) 国の施策・取組み

#### ① 木材利用の推進について

林野庁 木材利用課 阿部 勲 課長

#### ② 官庁営繕部における木材利用推進の取組について

国土交通省 官庁営繕部 木材利用推進室 会田 隆 課長補佐

#### ③ 木材を利用した学校施設づくり促進の取組

文部科学省 文教施設企画部施設助成課 木村 哲治 課長補佐

## 2 地域の取組例の発表

### ア 地域の取組例の発表

#### ① 木質化街づくり～大震災復興に向けて（宮城県東松島市）～

住友林業株式会社住宅事業本部木化営業部企画総務チーム

杉本 貴 — チームマネージャー

要旨：住友林業は東松島市と街づくり連携協定を結んで、東日本大震災からの復興を目指す東松島市で県産材を有効に活用し、雇用の確保・環境共生・文化の継承を軸とする街づくりなどを提案し、住友林業の持つ技術や経験を活用し新しい街づくりが円滑に推進されるよう取り組んでいる。

#### ② 地域的取組による木質バイオマス利用発電の実践

山口県農林水産部農林水産政策課 松永 茂樹 主幹

要旨：山口県では、低コスト収集・運搬・燃料化システムの開発を目指して、「バイオマスエネルギー地域システム化実験事業」を実施した。実験の結果は、低コスト収集・運搬システムの評価としては、枝葉・残渣の圧縮・減容化を目指したが、「丸太」に特化した収集・運搬に収れん、可搬式チップパーによる伐採現場でのオンサイト・チップ化方式は、チップ輸送時の「嵩」増大によって普及せず、集荷・燃料化を「拠点」方式とすることにより、スケールメリットを活かした低コストが実現されることが実証された。

## 推進活動宣言

## 3 講演

演題 木材利用の新機軸と成長産業化へ向けて

講師 東京大学大学院 農業生命科学研究科 安藤 直人 特任教授（名誉教授）

要旨：森林・林業・木材産業を成長産業に向かわせるためには、経済と環境の変化をたえず把握しておくことが重要である。住宅工法の変化、注文住宅の一次取得者の年齢構成、地域型住宅ブランド化事業では地域型住宅の特徴である安全・安心・信用・信頼を前面に据えた営業戦略が求められる。また、木材の生産地と消費地の連携強化も必要であるし、国内に止まらず国際化、木材輸出、海外進出の取組も重要である。木を知り・木を活かすには資源状況の把握、市場状況の把握、市場ニーズの把握、技術開発なども重要となってくる。

(今回のシンポジウムは、「緑と水の森林ファンド」の助成を受けています。)